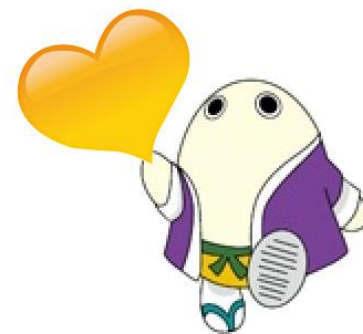


平成28年熊本地震災害
京都府災害派遣福祉チーム活動報告会



**熊本地震災害に対する京都府の支援
及び“京都DWAT”の活動について**

平成28年9月4日

京都府健康福祉部

平成28年熊本地震の規模

- 平成28年4月14日(木)21時26分頃、熊本県熊本地方でマグニチュード6.5(最大震度7:益城町)を記録する地震が発生
- 2日後の4月16日(土)1時25分頃、さらに大規模なマグニチュード7.3(最大震度7:益城町、西原村。震度6強:熊本市、大津町、南阿蘇村。震度6弱:阿蘇市ほか)の地震が発生

京都DWATの支援状況

京都府災害派遣福祉チーム“京都DWAT”

- ・派遣日: 5月13日～5月31日
(先遣派遣: 5月12日)
- ・派遣先: 益城町「ミナテラス」
- ・派遣者: 5人1チーム(3班) 15名
- ・内 容: 避難所における福祉的な相談や支援、避難所の運営補助など
活動拠点ミナテラス内“さしより”

京都DWATの派遣経過

4月14日(木)21時26分	地震発生(前震)マグニチュード6.5 震度7
4月16日(土)1時25分	地震発生(本震)マグニチュード7.3 震度7
5月 5日(木)	熊本県から岩手県DWAT後の派遣について依頼
5月 6日(金)	京都DWATの派遣決定～DWAT所属団体へ派遣依頼
5月12日(木)	第1班班長及び先遣隊(事務局員等3名)派遣
5月13日(金)	第1班派遣開始 ～19日(木)
5月18日(水)	第2班班長及び事務局員2名派遣
5月19日(木)	第2班派遣開始 ～25日(水)
5月24日(火)	第3班班長出発
5月25日(水)	第3班派遣開始 ～31日(火)
5月31日(火)	派遣支援終了

DWATの活動内容

1 活動の概略

- 避難者への生活改善支援
- 避難所の生活環境改善支援
- 生活相談(生活相談、社会資源の利用相談)
- 関係機関、団体との連携確保
- 継続的な支援体制の構築 など

“福祉専門職員が目線で避難所・者を支援”

DWATの活動～1日の流れ～

時間	内容
7:00	宿出発（阿蘇市内）
8:45	ミナテラス到着、相談所「さしより」準備
9:00	ラジオ体操
9:15	相談、避難所巡回（マップ）、さしより相談
10:00	総合ミーティング（班長）
12:00	休憩
13:00	相談、避難所巡回（マップ）、さしより相談
15:00	ラジオ体操、コミュニケーション
15:10	ミナテラス内ミーティング（班長）
17:00	活動終了
	～車中、業務反省会、宿帰着後、報告書作成等

活動拠点「さしより」



ミナテラスの入口から一番近いところに設置された福祉相談コーナー「さしより」。

気軽に相談してもらえよう「とりあえず」の熊本弁である「さしより」と名付けられ、福祉的な相談だけでなく、様々な相談に応じて避難者のみなさんの生活を応援・支援しました。

避難所内の環境整備支援



体を屈める負担を軽減するとともに、避難所の衛生環境を整えました。

また、避難している子どもたちと一緒に作り、子どもたちの心のケアにも繋がりました。
“福祉の目線”があるからできたこと。

避難所全体の環境整備



挨拶と声かけにより、要支援者の発見、顔の見える関係を持ち、避難者との信頼関係を築きました。

避難所内を巡回し、段差などがあれば補修を依頼するなど避難者が安心して過ごせるよう支援しました。



熊本災害支援のふり返し

派遣チーム員の声(抜粋)

- 初めての派遣であり、実際に活動できたことが大きな1歩。
- 災害時に限らず、福祉の観点での気づきから実践まで行えた。
- 災害時に限らず、受入体制の整備や防災について学ぶことが大事。
- 災害の規模により福祉避難所の活用が困難になる可能性があるため、一般避難所での福祉コーナー設置は、現実的であった。
- 所属法人の施設が福祉避難所の指定を受けており、施設での受入イメージを持つことができた。

益城町避難所のその後

高齢者、障がい者、子育て世帯、その御家族のみなさまへ

生活総合相談窓口

を開設しました



益城町では、被災した方々を支援するため、益城町総合体育館、広安小学校体育館にワン・ストップで相談に対応する生活総合相談窓口を開設しました。

※詳しくは裏面をご覧ください。

被災して、困っている方は、どんな相談でも対応してくれる、生活総合相談窓口へ相談するモン。

益 城 町

協力：熊本県認知症疾患医療センター、熊本県災害派遣福祉チーム
熊本県介護支援専門員協会、熊本県介護福祉士会
熊本県社会福祉士会、熊本県精神保健福祉士協会
熊本県医療ソーシャルワーカー協会
熊本県障がい者相談支援事業連絡協議会
熊本県北部発達障がい者支援センター「わっふる」

(活かされたDWAT活動)

5月末の活動終了後、現地では、支援行動を共に行ってきた熊本県災害派遣福祉チーム(熊本DCAT)が中心となり、福祉相談コーナー「さしより」で培ったノウハウを活かし、さらに充実させた「生活総合相談窓口」が開設された。

引き続き京都からできる支援を！

